

株式会社免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570



代表取締役社長 清藤 勉

平成29年6月6日（火）

■ 平成29年3月期（第35期）

決算報告（連結）

■ 中期経営計画

【診断・試薬事業】

単位:千円	前期	当期	増減
売上高	527,623	556,015	5.4%増
営業利益	+121,736	+117,858	3.2%減

(売上高)

⇒ 受託サービス 31百万円増

ユーザーのニーズをくみ取り、販売活動を実施

⇒ 牛海綿状脳症(BSE)測定キット 29百万円減

検査対象減少等の影響

⇒ 抗体 39百万円増

前期タカラバイオへ返品の影響(利益は、前々期に返品調整引当金を計上したため前期影響なし)

【遺伝子組換えカイコ事業】

単位:千円	前期	当期	増減
売上高	67,433	71,809	6.5%増
営業利益	△142,444	△1,239,697	1,097百万円悪化

(売上高)

- ⇒ 研究用タンパク質の受託生産等の売上
- ⇒ ラミニン511-E8(iPS細胞等の培養足場材)販売開始

(営業利益)

- ⇒ 前橋研究所の資産を研究開発費へ一括費用計上(941百万円)
フィブリノゲンやHIV治療薬をはじめ医薬品原料シーズの
研究開発項目の増加⇒研究開発拠点としての意味合いが増加

【検査事業】

単位:千円	前期	当期	増減
売上高	111,756	105,228	5.8%減
営業利益	△20,158	△18,309	1百万円改善

(売上高)

「LipoSEARCH®」

⇒ 海外販売は大幅増

⇒ 国内販売は減少

「LipoTEST®」

⇒ 他社との競合による影響から売上高が減少

【化粧品関連事業】

単位:千円	前期	当期	増減%
売上高	15,793	13,804	12.6%減
営業利益	△35,447	△17,743	17百万円改善

(売上高)

- ⇒ 通販部門で売上高が減少
- ⇒ 大手ドラッグストアの9店舗において、テスト販売開始
- ⇒ 国内や欧州、アジア圏からの引き合いが増加

特別損失（連結）の計上について

会社	グループ	摘 要	金額(千円)
IBL	全社	固定資産の減損	714,232
IBL	全社	投資有価証券の評価損	27,418
IBL	全社	固定資産の除却損	7,893
SLB	検査事業	のれんの減損	147,737
SLB	検査事業	固定資産の減損	20,973
合 計			918,256

IBL⇒免疫生物研究所、SLB⇒スカイライト・バイオテック、NSC⇒ネオシルク化粧品

前橋研究所 資産⇒研究開発費へ振替 941,704千円


 全社業績（連結）

（千円）	平成28年 3月期 （第34期）	平成29年 3月期 （第35期）	開発費振替 特損計上	（参考）	参考前年差 （予算%）
売上高	717,661	741,525		741,525	+23,864 (92.7)
売上総利益	452,029	414,782		414,782	
営業利益 （△損失）	△75,353	△1,156,931	941,704	△215,227	△139,874 (119.6)
経常利益 （△損失）	△81,797	△1,170,355		△228,650	△146,853 (127.0)
親会社株主に帰 属する当期純利益 （△損失）	△31,898	△2,094,467	918,256	△234,506	△202,608 (123.4)

キャッシュフロー（連結）

(千円)	H28年3月期 (第34期)	H29年3月期 (第35期)
営業CF	△16,984	△55,886
投資CF	△607,709	△458,490
財務CF	+286,671	+2,145,528
現金及び現金同等物の期末残高	891,915	2,522,102

貸借対照表（連結）

（百万円）	前期末	当期末	増減	主残高
流動資産	1,485	3,129	+1,643	現預金 2,574
固定資産	1,871	296	△1,574	
資産合計	3,356	3,425	+69	固定資産 （土地） 122
流動負債	164	234	+69	社債 1,519
固定負債	405	1,849	+1,444	
負債合計	569	2,084	+1,514	借入金 475
純資産合計	2,786	1,341	△1,444	
負債純資産合計	3,356	3,425	+69	

■ 平成29年3月期（第35期）決算報告（連結）

■ 中期経営計画

【診断・試薬事業】

検査事業と営業活動を共有化

双方のマーケット市場において、全国の代理店網への
営業活動や直接ユーザーへの訪問活動を強化

積極的に国内外の学会へ参加

【国内 5ヶ所】

日本糖尿病学会、腎臓病学会、日本動脈硬化学会
日本肥満学会、日本認知症学会

【海外 5ヶ所】

欧州動脈硬化学会、米国糖尿病学会、米国臨床化学会議
欧州糖尿病学会、ニューロサイエンス

【診断・試薬事業】(研究項目)

難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー「CTP (cochlino-tomato-protein)」に関する発明

日本国内は、(株)コスミックコーポレーションに薬事申請・販売の権利を譲渡⇒体外診断薬の承認申請に向けてデータ採取、資料作成中
海外は、研究用試薬として弊社販売代理店を通じて販売を開始

成人T細胞白血病(ATL)の発症原因ウイルスHTLV-1が感染した細胞に関連するタンパク質に対する抗体及び測定系の開発

研究用試薬としての販売開始を予定

筋ジストロフィー患者の尿中に存在するタイチンというタンパク質に対するELISA測定系の開発

平成28年11月に研究用試薬として販売を開始

⇒病気の診断・病態・運動のモニタリングマーカー開発中

【診断・試薬事業】(研究項目)

Muse細胞の分離・精製等に関する研究

株式会社生命科学インスティテュート(LSII)とMuse細胞を用いた再生医療事業に関して共同研究を実施

⇒今後については、LSIIと協議が進行中

認知症関連タンパク質として、アミロイドβを中心とした種々のタンパク質に対する抗体・測定系の開発

京都大学、千葉大学と共同で、神経毒性を強く有するといわれている毒性オリゴマーに対する抗体、及び測定系を開発

⇒毒性アミロイドβ特異的測定系の開発に成功

⇒論文を発表、ELISAキットの発売を開始

⇒毒性オリゴマー特異的抗体は医薬品シーズとしての可能性大

⇒動物モデルを用いた薬効・薬理試験など実施

⇒近い将来、治療薬メーカーへの導出を目指す

【診断・試薬事業】(研究項目)

アミロイド前駆体タンパク質APP770を特異的に測定できるELISAキットを開発

研究用試薬として販売開始

特許出願が成立

⇒体外診断薬の製品化に向けて研究開発が進行中

脂質代謝関連タンパク質における体外診断薬への展開

大阪大学、群馬大学、神戸大学などとの共同開発を進行中

平成29年4月6日群馬大学において研究発表

⇒タンパク質GPIHBP1の測定キットを開発中

⇒体外診断薬への展開も視野に入れ、本共同研究を推進中

検査事業の技術との相乗効果によりこの領域における当社の製品ラインアップを充実させ、存在意義を確立し、販売促進に努めてまいります。

平成29年3月期(第35期) セグメント別中期経営計画

【診断・試薬事業】(研究項目)

・ 診断・試薬事業 (単位：百万円)						
	27年3月期 (実績)	28年3月期 (実績)	29年3月期 (実績)	30年3月期 (予想)	31年3月期 (中計)	32年3月期 (中計)
売上高	504	527	556	565	590	610
営業利益	△26	121	117	68	120	130

【遺伝子組換えカイコ事業】

(医薬品の実用化を目指す研究開発)

アステラス製薬(株)

遺伝子組換えカイコの繭から生産されるヒト型フィブリノゲンの産生量の向上を図るとともに、大量飼育設備による安定した大量飼育方法の構築を目指す。

(株)CURED

株式会社CUREDが所有する抗HIV抗体のADCC活性を当社の遺伝子組換えカイコ技術を用いて飛躍的に増強させ、HIV感染症を治癒する画期的な抗体医薬品の実用化を目指す。

琉球大学

琉球大学との共同研究により開発してきたヒト化抗HTLV-1抗体を遺伝子組換えカイコにて生産し、成人T細胞白血病(ATL)を治療する抗体医薬品の開発を開始。

【遺伝子組換えカイコ事業】

(医薬品の実用化を目指す研究開発)共同研究先(導出先)を模索中

糖鎖構造の特徴から高ADCC活性抗体が生産できる遺伝子組換えカイコの利点を生かし、癌等を治療する抗体を製造し、バイオベターとして実用化することを目指す。

(動物医薬品の実用化を目指す研究開発)大手動物用医薬品メーカー

動物用医薬品原料となるタンパク質の生産を進めております。遺伝子組換えカイコ生産技術の利点を最大限に生かし、高い安全性および有効性が要求される動物用医薬品の原料として活用することを目指します。

【遺伝子組換えカイコ事業】

(研究用試薬・体外診断用医薬品原料としての抗体開発)

当事業の技術は、従来の製造方法に比べ、ロット間差が小さく、バックグラウンド値が低く、非特異的反応の低減等の大きな利点

⇒ この技術を活用して、当社の製品であるアミロイドβ測定キットに用いている抗体を、遺伝子組換えカイコ生産抗体に切り替えたほか、大手体外診断用医薬品メーカーへも、抗体の供給を実施

(スケールアップにより売上高の拡大を目指す)

iPS細胞等の培養足場材として有効であるラミニン511-E8フラグメントを遺伝子組換えカイコにより開発・製造し

⇒ 株式会社ニッピおよび株式会社マトリクソームより販売開始

【遺伝子組換えカイコ事業】

(スケールアップにより売上高の拡大を目指す)

アレルギーを起こす危険性が低い安心・安全な化粧品原料「ネオシルク®-ヒトコラーゲンⅠ」を製品化

⇒化粧品業界へ展開し、国内外からの引き合いも増加傾向
新規原料の「ネオシルク®-ヒトコラーゲンⅢ」を早期実用化へ

⇒化粧品業界待望！赤ちゃんに多く含まれる希少なコラーゲン「ネオシルク®-ヒトコラーゲンⅢ(ベビーコラーゲン)」の製品化を目指す

(今後の課題)

研究開発項目の増加や製品化されているラミニン及びネオシルク・ヒトコラーゲンの生産に必要な遺伝子組換えカイコの飼育頭数が劇的に増加するため、人工飼料のコストが増加

⇒桑の葉の確保及び人工飼料のコスト低減を図る

平成29年3月期(第35期) セグメント別中期経営計画

【遺伝子組換えカイコ事業】

・ 遺伝子組換えカイコ事業 (単位：百万円)

	27年3月期 (実績)	28年3月期 (実績)	29年3月期 (実績)	30年3月期 (予想)	31年3月期 (中計)	32年3月期 (中計)
売上高	90	67	71	33	80	108
営業利益	△44	△142	△1,239	△202	△170	△151

※予想及び中計の数値には、契約金やマイルストーン等は、含めておりません。

【検査事業】

(診断・試薬事業との営業活動を共有化)

- ⇒国内外の学会に積極的参加
- ⇒双方のマーケット市場において、販促活動を強化

(新技術による測定サービスで売上高の拡大を目指す)

- ⇒測定システムの導出を視野に入れて開発中
- ⇒リポタンパク質の「粒子サイズ」に加え「粒子数」の分析が可能
- ⇒新たにガスクロマトグラフィーを導入
- ⇒血中遊離コリン測定サービスを開始

検査事業 (単位：百万円)

	27年3月期 (実績)	28年3月期 (実績)	29年3月期 (実績)	30年3月期 (予想)	31年3月期 (中計)	32年3月期 (中計)
売上高	109	111	105	130	165	180
営業利益	△38	△20	△18	3	35	50

【化粧品関連事業】

(原料「ネオシルク®ーヒトコラーゲン」の売上高拡大を目指す)

欧州を中心とする販売代理店と交渉中

(化粧品「フレヴァン」シリーズの売上高拡大を目指す)

通信販売において、アウトバウンドにより、継続ユーザー獲得
ドラッグストアへのテスト販売を強化
中国を中心とするアジア地区への販売を目指し、販売代理店と交渉中

・化粧品関連事業（単位：百万円）

	27年3月期 (実績)	28年3月期 (実績)	29年3月期 (実績)	30年3月期 (予想)	31年3月期 (中計)	32年3月期 (中計)
売上高	25	15	13	45	155	290
営業利益	△74	△35	△17	15	35	90

新中期経営計画(連結)

	平成30年 3月期 (予想)	平成31年 3月期 (中計)	平成32年 3月期 (中計)
売上高	773	990	1,188
診断・試薬事業	565	590	610
遺伝子組換えカイコ事業	33	80	108
検査事業	130	165	180
化粧品関連事業	45	155	290
営業利益(△損失)	△116	20	119
診断・試薬事業	68	120	130
遺伝子組換えカイコ事業	△202	△170	△151
検査事業	3	35	50
化粧品関連事業	15	35	90
経常利益(△損失)	△122		
当期純利益(△損失)	△128		

※平成30年3月期は、平成29年5月12日公表した「平成29年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の連結業績予想の数値となります。

※予想及び中計の数値には、契約金やマイルストーン等は、含めておりません。



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。